

徳永 雅之 展 『Particles from 1991 to 2020』

[前期] 「茫洋 - A limitless journey -」 (1990年代の作品より)

2022年 6月 3日(金) ～ 6月 27日(月)

[後期] 「記憶 - Memories from the depth -」 (2000年代の作品より)

2022年 7月 8日(金) ～ 8月 1日(月)

会期中 (金)(土)(日)(月) 開廊 (火)(水) 事前予約制

12 : 30～18 : 30

(木) 休廊

料金別納
郵便

kaneko
art.g

ART
INTO
LIVES

〒230-0002
横浜市鶴見区江ヶ崎町13-2 (2F-A)
TEL/FAX 045-515-9420
E-mail kaneko.art.g@gmail.com

最寄り駅

①JR川崎駅西口 58番のりば 臨港バス
「横須賀線武蔵小杉駅」行き乗車
「江ヶ崎八幡」下車 徒歩2分

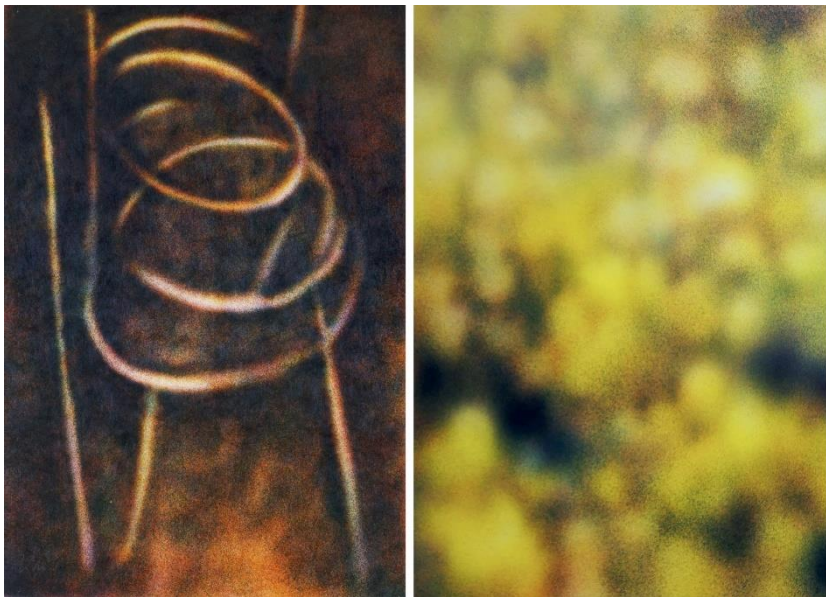
②JR南武線・矢向駅または尻手駅より
徒歩15分ほど

※詳細はホームページをご確認ください
<https://kaneko-art-gallery.com>



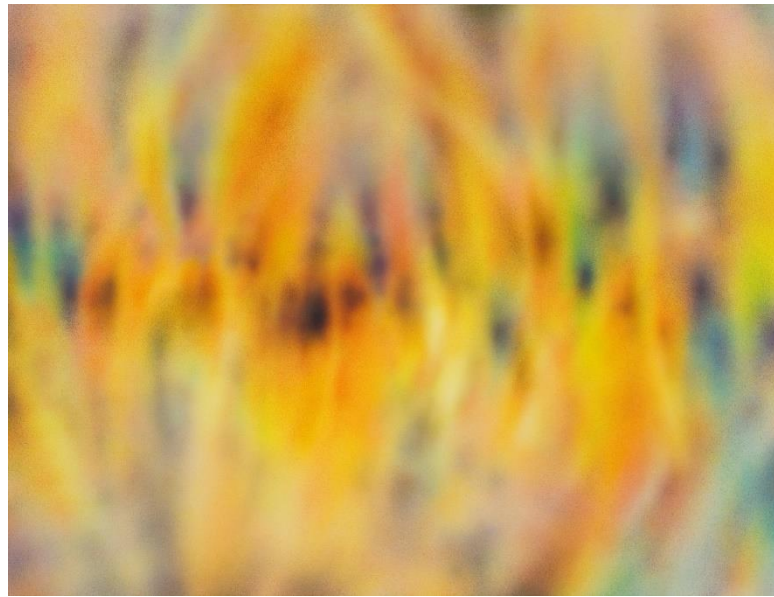
Website





[前期] 「Untitled」(1991年)、「Untitled」(1993年)

徳永雅之の作品を振り返るときに、その制作の旅路をあらわす言葉は何がふさわしいだろうかと考えた。一言ではあらわせないながらも、それは広大な世界につながっている「何か」が常に基層にある歩みのような気がしていた。茫漠とした旅路のなかで作家が辿り着いた境地のようなもの、近年の作品に見られるその凄みの深淵はどこにあるのか。それが新作を目にしたときの問いであった。制作初期の「未発表作」も含め振り返ると、その時期の作品がこちらに投げかけるものが多々あると感じた。本展が上記の問いを探ってゆくための架け橋になればと思う。



[後期] 「ダンス」(2009年)

徳永雅之の2000年代の作品は、大きな支持体に向かってより広大な世界を描こうとしていたように映る。その試みは鑑賞する側にとっては悠々とした印象を残すものであったが、作家の内面ではさまざまな葛藤もあったようである。自分が本当に描きたい世界、そして現実に自身が描き残したもの。その対峙のなかで、作家はより真摯に、自身の深淵へと下降を続けてゆく。その作品群は、まさに作家の内面から湧き出てくる原初的な『記憶』を描き続けてきたような印象がある。

2022.5 kaneko art gallery